

ウォーキング

伊勢の海県立自然公園を歩く

令和8年2月14日（土）

1. ルート 近鉄北楠駅～楠郷神明社～五味塚橋～鈴鹿川派川右岸堤防～楠漁港～伊勢湾堤防～鈴鹿漁港～久々志彌神社～箕田公園～若松漁港～伊勢若松駅
9.5 km (14,500 歩)
2. 参加者 伊橋健治・伊藤利男・市川義行・喜吉 雄・高木 勉・伝田 貢・中村軍志・中村 衛・濱田 一
9 名
3. ドキュメント

激寒のこの時期に堤防道路を歩くことは西風が強く大変であろうことを予測したものの天候を天に任して伊勢の海県立自然公園の鈴鹿の浜辺を歩く計画を立てる。9:40 北楠駅前に集合。いつもより少し賑やかな9名の参加者で幹事の顔もほころぶ。歩き始めて10分ほどで楠郷のお宮とお稲荷さんに着く、森の中に少し小さめの社が厳かに鎮座している。今日の歩きの無事を祈ってみんなで手を合わせる。堤防下の道を少し東へ行くと鈴鹿川派川に架かる五味塚橋に差し掛かる。鈴鹿川は下流で二股に分かれ分流は派川と呼ばれている。橋を渡って右岸の堤防道路を下流に向かって歩く。新五味塚橋の下を潜ったところから川辺に海鳥が群れを成して見受けられるが遠くて何鳥かさっぱり見当もつかない。おそらくカモ・シラサギ・鶺鴒・カモメなどの海鳥であろう。



楠郷総社神明社



北浦稲荷



五味塚橋から振り返る神社の森



海鳥が日向ぼっこ

河口の近くの堤防からは四日市コンビナートのエントツが遠くに見える。そして東の方角には製油所のシーバースに着船しているタンカーを見ることができた。楠漁港を左に見て伊勢湾の堤防に出る。この付近の海岸の砂場にはハマグリ(ハマグリ)の養貝場がある。以前は多くの養貝が行われていたらしいけれども今は荒れた砂池もあってその生産は少なくなっているのだろうと勝手に思う。歩き始めて50分、養貝場の堤防で休息を摂る。2月の半ばなのに春の陽気となり風も少なく潮風を心地よく感じる。よほど心掛けのよいメンバーの集まりなのか？



鈴鹿川派川の向こうにコンビナート



楠漁港



養貝場



伊勢湾を行き交う船を眺める

この付近が四日市と鈴鹿市の境だろうと感じながら歩を進める。暖かさが増し、身体を動かしている勢なのか防寒着を脱ぐ者も出始める。単純な堤防道路なのに行き交う船舶を眺めながらの歩行はなぜか退屈しなかった。空気の澄んだ時には知多半島やセントレア空港から飛び立つ飛行機がはっきり見えるとのことである。



伊勢湾護岸堤防を歩く



鈴鹿漁港内を歩く



鈴鹿漁港・停泊中の漁船

しばらく行くと二つ目の漁港鈴鹿漁港に到達する。広い港内には小舟がいっぱい停泊していた。構内を通りぬけて堤防道路に戻ると海辺には海苔養殖の網が見られた。下箕田付近で飲み物を買って求めるため堤防を離れて塩浜街道に入る。街道筋に久々志彌神社が祀られていたので一休みを兼ねてお参りする。買い物をして民家の中を通り海岸にある箕田公園に向かう。箕田公園に12時10分到達。



久々志彌神社



芝の箕田公園



公園に座り込みカンパイ!!



一杯気分でパチリ

箕田公園は河岸堤防に沿って芝生が敷き詰められ子供の遊具がありびっくりするほど手入れがされている。その一角をお借りして昼食?を摂る。暖かな陽気でビールが美味しい。1時間余り過ぎて立ち上がるも皆さん満足そうな顔つきだ。全員で二枚の写真を撮り再び海岸堤防に出る。



展望台からまたパチリ



若松漁港



若松漁港開港記念碑と祠



浄土真宗高田派の西運寺

大黒屋光太夫について

1751年現在の鈴鹿市若松東に生まれ、1782年遠州灘で遭難、翌年ロシアに漂着、10年後に帰国し幕府に留め置かれてその見聞体験は有効に活用された。78歳で江戸にて没した。



大黒屋光太夫の像

15分ほど歩くと三つ目の漁港、若松漁港に到達する。開港記念碑と仏様を祀った祠があった。海岸線を離れて町中に入ると地元の豪農が建てたといわれている西運寺に立ち寄る。塩浜街道を横切って伊勢若松駅に着いたのは14時過ぎであった。みんな元気に完歩する。駅前の広場に偉人・大黒屋光太夫の立像がひっそりと建っていた。